

令和5年2月14日

保護者 様

仙台市立桜丘小学校

校長 武田 理恵子

【令和4年度 桜丘小学校協働型学校評価】アンケートの結果について

残寒の候、保護者の皆様方にはますます御健勝のことと存じます。また、日頃から桜丘小学校の教育活動について御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年11月にお願いしました「令和4年度桜丘小学校協働型学校評価アンケート」に御協力いただきありがとうございました。保護者の皆様からいただいた御意見は、校内の学校運営反省会や新年度計画全体会などの中で検討し、来年度の教育活動に反映させていただきます。感謝申し上げます。

つきましては、児童アンケート結果・保護者アンケート結果・地域アンケート結果とその分析・対策について御報告いたします。

1 実施日 令和4年11月～12月

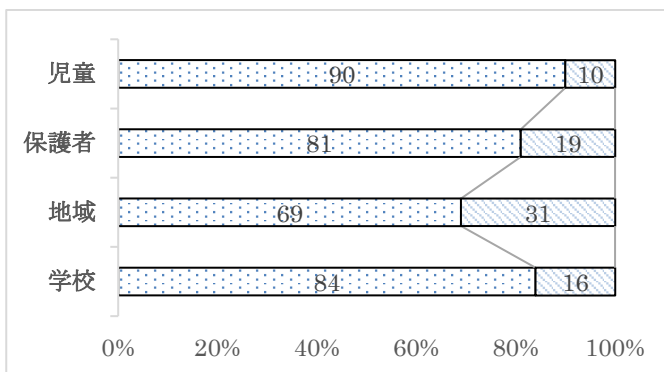
2 回収数 児童 394人 保護者数 239人 地域の方々 13人

3 児童、保護者、学校、地域のアンケート結果

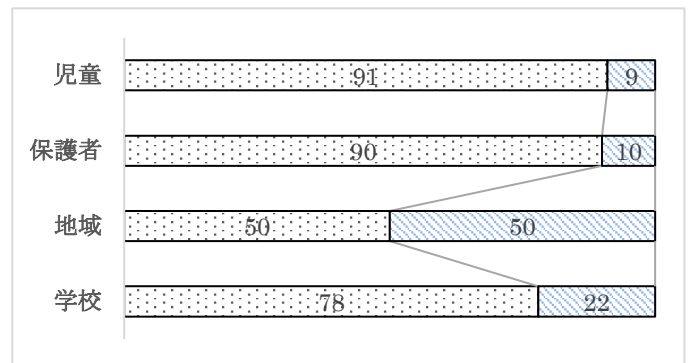
(1) 児童、保護者、学校、地域4者の結果比較から

左の数値：「よくできている」と「だいたいできている」を合わせた割合（％）
右の数値：「あまりできていない」と「できていないの割合」を合わせた割合（％）

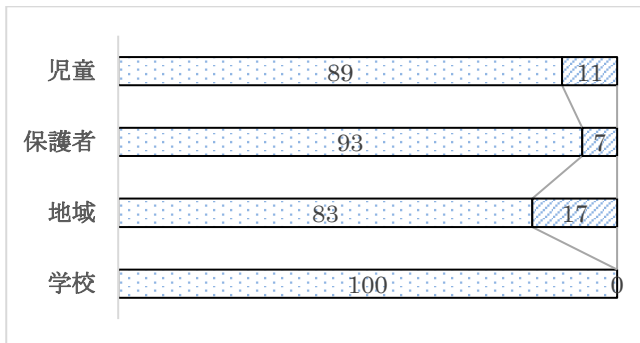
① 子供は、進んであいさつをしている。



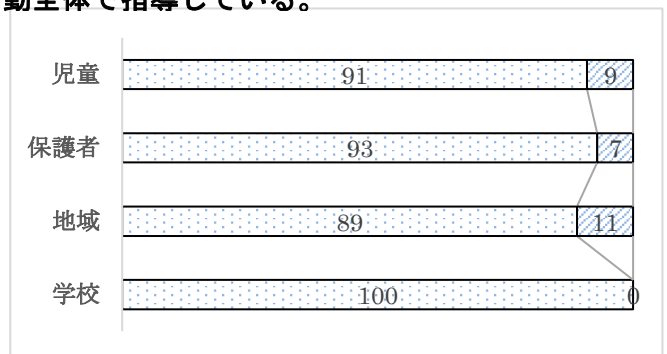
② 子供は、「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を伝えている。



③ 学校は、子供たちが進んであいさつをするように取り組んでいる。



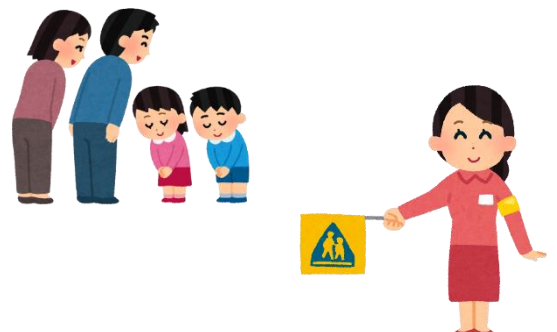
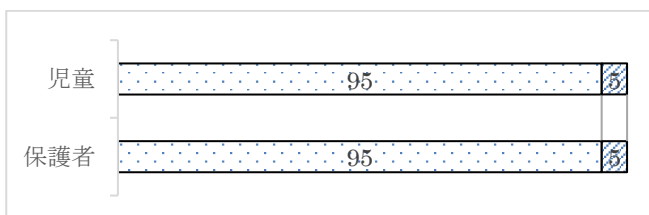
④ 学校は、あいさつを通して「人と人が心と言葉をつなぐ」ことの意義や方法について、教育活動全体で指導している。



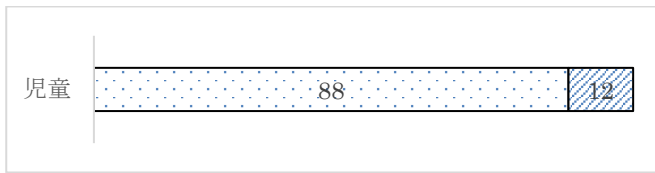
(2) 児童・保護者の結果比較から

○おうちの人とあいさつをしている。(児童)

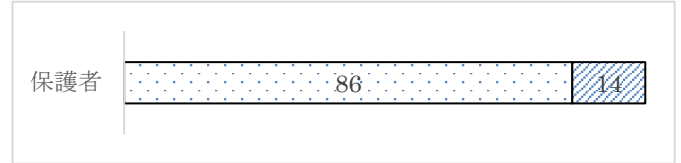
○家庭では、親子間であいさつをしている。(保護者)



○桜ヶ丘に住んでいる地域の方に
あいさつをしている。(児童)

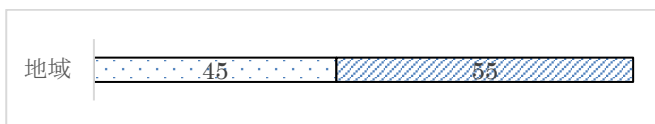


○家庭では、お子さんが良いあいさつができるように
促したり、やり直しをさせたりしている。(保護者)



(3) 地域アンケートの結果から

○地域の方々は、子供たちにあいさつを促している。(地域)



4 自由記述から

【保護者の方から】

- ・子供たちの方からあいさつしてくれます。とてもうれしいです。大人たちも笑顔であいさつすることを心掛けていくことが大切ではないかと思います。
- ・子供が「あいさつマスターになりたい!」とやる気を出しておりましたので、あいさつできる子はカッコいいという意識が大切なのだなと感じました。
- ・学校での先生方の指導が素晴らしいためあいさつができています。ご指導いただきありがとうございます。
- ・小学校をはじめ、桜ヶ丘のまち全体であいさつに積極的に取り組んでいると思う。
- ・大人(学校の先生方、保護者、地域の方々)が率先して子供たちに気持ちよくあいさつ出来れば良いと思います。又、学校でも先生方と保護者が気持ちよくあいさつし合う姿をきちんと子供たちに見せることが出来るよう意識していくことも大切かと感じます。
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」は大人でも難しい。子に対しても積極的に意識して使っているところだ。
- ・子供は、なかなか自分からあいさつすることは緊張することだと思うので、大人の方から先にあいさつしやすい状況を作ってあげると良いと思う。
- ・あいさつされた大人もきちんとあいさつをすれば自然とみんなあいさつをするようになる。
- ・最近、促さないとあいさつをしないようになっている。私自身も親に促されてあいさつをしていた記憶がある。今は成長のひとつかなと思い、親自身があいさつをするように心がけている。学校の取り組みはコロナ禍ということもあり、取り組みの様子をみるのがほとんどないが、公園探検ボランティアで先生方の様子を拝見し、取り組まれていることがわかった。
- ・知っている子供たちにあいさつをうながすのはできるが、ただ、家の前を通っている子供にあいさつをこちらからするのも少しためらいがある。ただ、あいさつをするだけでも、親として少し気持ちが違ってくるところを自分の子供を中心に伝えていけたらなあと思っています。
- ・大きな声であいさつをしておくと、周囲への周知にもなり、防犯対策にもつながるという事を教えても良いかもしれません。
- ・朝の巡視の時、誰1人ともあいさつが返ってくることはありません。
- ・防犯上のこともあり、知らない人に声をかける、かけられることが必ずしも良いことではないと思います。通学路に立って頂いている方へのあいさつはできていると思います。

【地域の方から】

- ・コロナ禍での入学、マスクが外せない不自由ななかでの行動の制約、半年が過ぎて個性が出てきて、しっかりと自分の意見を話せるようになって成長を感じます。先生方の苦労には頭が下がります。楽しい学校生活が送れるように手助けになればと思っています。
- ・感覚的に以前の方が子供たちも先生方も積極的にあいさつをしてくださったように思います。授業前後のあいさつも、もっと厳しくご指導されていたような気がします。コロナの中でも、子供たちが様々な体験、ふれあいを通して成長できる環境を作っていただけたらと思います。
- ・あいさつなどはお子さんによって差があるように思う。(よくする人とあまりしない人と)
- ・「目をつなぐ」はあいさつの時、しっかり見ているのを感じる。
- ・地域でのあいさつの促しは、今色々な事件があり難しいように思う。あいさつして来る人や笑顔が見られるお子さんには声をかけやすいが・・・
- ・このようなサポート活動を通して、学校を離れた所でも、子供たちに自然に声掛けできるようになりました。
- ・子供たちが自然に「相手を認めるが大事」だと思えるようになるためには、各家庭での普段からの親同士や親～子のあいさつを、あたりまえに、交わす姿を通して、醸成できるのではと思います。あいさつが出来る子供は、きっと明るい、何でも話し合えてるご家庭だと思います。
- ・「目をつなぎます」の言葉がとても心に響きました。
- ・子供たちはあいさつをしてくれます。一部の子供だけ性格？なのかあいさつを返しません成長して挨拶ができることを願っています。
- ・子供たちが安心できる人(例えば交通指導の方、見守りの方)の声掛けは良いのですが、地域での声掛けの難しさを感じます。
- ・子供はかわいいです。ですが、私の年代では考えられないお子様が多いようです。みんな同じでなくても良いとは思いますが、最低限のルールはあると思います。仲良く遊ぶはもちろんですが、上のものに対する態度などが出来ていないかな？と思います。

5 アンケートの結果から

本校では学校・家庭・地域が目標を共有し、その目標を達成するために、それぞれが協働して取り組む協働型学校評価重点目標を「自分から進んで、心と言葉をつなぐあいさつをしよう～目をつなごう～」と設定し、3年目となりました。学校では、地域における「あいさつ運動」に参加をしたり、児童会主体で「あいさつマスター運動」に取り組んだりしている。また、令和2年度より「目をつなごう」という合言葉を意識することで、子供たちもあいさつに対する意識の高まりが見えてきました。児童のアンケート結果では、どの項目も9割近くの肯定的評価を得ています。また、保護者の方々からも、お子さんの姿や学校の取組に対して肯定的評価をいただいております。一方、地域の方々から「あいさつ」に関する評価に伸びが見られませんでした。「知らない人には、あいさつをしない。」という子供の意識が高まっていることと、地域の方々からは「最近、あいさつが減った」「返事をしてもらえない」といった声が届いています。あいさつを交わすことで生まれる「つながり」は、子どもの安全を高める「見守り」や「助け合い」の土台として、大切なものです。まずは、見守りのビブスを着ている地域の方々や登下校の見守りをして下さる防犯ボランティアの皆様には、自然にあいさつができるように、今後も指導していきます。

○この他にも貴重な御意見、御提言をいただきました。また、本校学校教育への温かい励ましや感謝の言葉もたくさんいただきました。皆様からいただいた御意見は職員全員で共有し、検討していきます。今後も保護者の皆様、地域の皆様の御意見を参考にして教育活動の改善に努めてまいります。御理解と御協力をお願いします。